



雪谷大塚クリニック

内科・呼吸器科 / 外科・呼吸器外科

東京都大田区北嶺町2-6
TEL.03-5754-2062 FAX.03-5754-2063
<http://www.yukigaya-cl.com>

培った経験と真心のこもった診療姿勢で 地域に末永く愛されるクリニックを目指す

対談

院長・医学博士

雨宮隆太

× インタビュアー「俳優

清水 章吾

茨城県立中央病院（茨城県都道府県がん診療連携拠点病院）
名誉地域がんセンター長
杏林大学客員教授・東京医科大学客員教授

清水 雪谷大塚クリニックさんを訪ねて対談前に院内を見学させて頂きましたが、車椅子やベビーカーでも不自由しないよう内部はすべてバリアフリー対応でアクティブな印象を受けました。また、待合室にはマッサージチェアなどが据え付けられ、非常にゆったりしていますね。この空間なら診察前の緊張感もさほど感じなくて済むような、和やかな雰囲気が漂っています。

雨宮 ありがとうございます。すべて妻の設計によるもので、地域の皆様が気軽に足を運べるよう《明るく清潔なクリニック》を

モットーに掲げました。待合室はヒーリング空間をと配慮し、また、処置室やレントゲン室、洗面所などは車椅子でスムーズに行き来できるようにしていますので、後程そちらもご案内します。

清水 受付を始めスタッフの皆さんの笑顔が素敵でハード面だけでなくソフト面も充実したクリニックという印象です。開業されてどれくらいになるのですか。

雨宮 当クリニックは妻の雨宮裕子が約五年前に開業しました。地域の方々の日常的な健康管理をサポートするべく、どんなこ

相談にも応じたいと日々診療に当たっていましたが、平成二十年十一月に他界したため私が急遽その志を引き継ぐべく十二月より新院長に就任した次第です。

清水 そのような経緯があったのですか。さて、雨宮院長はがん治療や呼吸器専門のドクターとして活躍され、様々な業績で高い評価を得ておられると伺っています。

雨宮 東京医科大学を経て茨城県へ単身赴任し、県立中央病院のがんセンター長や副院長、呼吸器グループ代表などを務めた他、呼吸器学会及び呼吸器外科学会の認定指導

医・専門医として、東京医科大学や杏林大学などで教鞭を執って後進の指導にも当たっていました。ですから妻が亡くなっていなかったらクリニックで診察することは考えもしなかったですね。これは余談ですが、茨城と一緒に仕事をしていた後輩ドクターが私を心配してか、三週間に一度くらいの割合で様子を見に来てくれるのですよ(笑)。

清水 院長の人脈の広さを感じるエピソードですね。しかしながら奥様の遺志を引き継ぐと決心したからには頑張ろうと。

雨宮 はい。妻はとにかく患者さんのためにと日夜頑張っていました。往診や介護医療にも積極的に取り組むなど徐々に雪谷大塚クリニックの存在が地域に認められていた矢先なので、志半ばで亡くなったのは本当に残念としか言いようがありません。それだけに妻が女医として時間を掛けて築いたものを継承し、私も真摯に患者さんと向き合っていきたいと考えています。

清水 大学で教鞭を執られるほど経験豊富なドクターが後を継いで下さったわけですから、さぞかし地域の皆さんは有り難いと感じていることでしょうか。

雨宮 妻が記したカルテを読み、妻の思いを感じながら診察に当たっていますが、志はしっかりと受け継ぐ一方で早く私のスタイルを確立しなければという気持ちもあります。私は呼吸器外科妻は呼吸器内科が専門でしたが、クリニックですからあらゆる疾患を抱えた患者さんがいらっしやいますので、あまり細分化せずにトータルで診ようという方針で取り組んでいます。様々な症状に対応しなければなりませんので、医学書なども以前より一生懸命読んでいます。また、当クリニックで可能な治療は即座に行ない、そうでないものは地域の連携病院へ紹介することが開業医の役割と考えていますので、日々そのことを念頭に置きながら診察に当たっています。診療手順や診察時間、それにスタッフは以前と変わっていませんので、私が院長になったからといって患者さんが戸惑うようなことは何もないと思います。私自身もスタッフがそのままだったからこそスムーズになじめた感がありますので。

清水 前院長がスタッフの皆さんの教育もきちんとなさっていたのでしょね。

雨宮 院長交代のための事務的な手続きに時間を要しましたが、それも優秀なスタッフが協力してくれましたので深く感謝しています。地域の事情など分からないこともその都度質問し、最近ようやくこの環境に慣れてきた状態です。

清水 中には前院長との治療の違いに敏感な方もいらっしやると思いますが。

雨宮 中には前院長との治療の違いに敏感な方もいらっしやると思いますが。



SAMPLE



東京都大田区の田園調布にも近い場所に開院して5年余り、地域住民との信頼関係ができた頃に志半ばで他界した妻の裕子院長の思いを継承すべく、雨宮隆太医学博士は茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンターを辞し、平成20年暮れに雪谷大塚クリニックの新院長に就任した。後進育成のため教鞭も執る呼吸器外科のスペシャリストから開業医への転身には戸惑いもあったと言うが、スタッフなど周囲の協力を得ながらクリニックになじみ、現在は専門性を生かした高度な地域医療に邁進する日々を送る。

INTERVIEW RYUTA AMEMIYA × SHOGO SHIMIZU

雨宮 納得のいく治療を追求するのが妻の方針でした。私もそれには共感しますので、仮に私の治療方法に疑問を投げ掛ける患者さんがおられたら説明をしっかりと行ない、納得してもらえよう努力をさせて頂きます。そこから患者さんとの信頼関係ができていっていいと思いますので。

清水 ところで、この辺りに同様のタイプのクリニックは多いのですか。

雨宮 いくつかあると思いますが、同じ地域で医療貢献を目指す者同士ですから、連携を深めつつ患者さんのために協力し合っ ていきたいと考えています。今後はいろんな形で交流できればいいですね。

清水 では、診察時間を教えて頂けますか。

雨宮 午前が九時〜十二時半で午後は五時〜八時となっております。土曜の午後と水曜日曜・祝日が休診です。また、火曜の午後三時〜五時は予約診を行ない、水曜は茨城県立中央病院に向き診察に当たっています。

清水 呼吸器を専門にしているからでしょうか、院長は太極拳にも詳しいそうですね。

雨宮 はい。クリニックでは月一度のペースで呼吸法教室を開いていますが、その際に太極拳を基本にした呼吸法を指導しています。例えば太極拳の動きを身に付けて歩く、滑りそうな場所でも緩やかな動きができますので転倒防止に役立つのですよ。現在は車椅子の方でも無理なくできる太極拳を日本健康太極拳協会の楊進理事長と考案するなど普及に努めています。

清水 私は脊椎を痛めた経験があるので、太極拳をすることで症状が緩和できるとアドバイスを受けました。

雨宮 深い呼吸ができるようになり脊椎の保護にも一定のメリットがあるのですが、太極拳は専門知識を持った指導者の下で行なう必要があります。自己流だとかえって

足腰に負担を掛けることになりかねませんので、清水さんも始める際は専門家に指導してもらおうことをお勧めします。

清水 なるほど。クリニックの呼吸法教室へは誰でも自由に参加できるのですか。

雨宮 もちろんです。子供さんからお年寄りまでいろんな年代の方がお見えになるのですよ。一番多いのは、やはり健康を気にされる五十代から七十代の方々でしょうか。皆さんそれぞれ情報交換などをなさいながら呼吸法と太極拳の輪がどんどん広がっており、喜ばしいことと思っています。

清水 地域の交流の場にもなっているんですね。前院長の遺志を継承しながら新たなカラーも徐々に浸透しているのでは。

雨宮 そうだと嬉しいですね。ただし私の名前がインターネット検索をすると、専門の呼吸器ではなく太極拳絡みの話題ばかりが出てくるのですよ。最近はいろんな施設や機関から依頼を受けて年間二十回くらい太極拳や呼吸法について講演を行なっているからでしょうか、医師としてはやはり医療面で存在感を示したいなと(笑)。

清水 県立病院副院長からクリニック院長に転身され超多忙だと思えますが、太極拳以外で健康管理のために心掛けていたりリフレッシュ法を教えてください。

雨宮 まだ生活が落ち着かず、休日には家で過ごすよう心掛けています。太極拳以外では琉球古武道で体調を整えています。

清水 この辺りは田園調布に近く住環境の良い場所ですが、奥様がここで開業された理由は何だったのですか。

雨宮 妻は開業するに当たっていくつか土地を見て回ったようですが、偶然この近くで私の旧友が商売を営んでおり、親近感が湧いたことから当地に決めたようです。全国どの地域でも高齢化が進み、この大田区

も例外ではありませんが、どこへ相談してもいのか分からない身体の悩みなども気軽に話しして頂きたいと思えますし、患者さんのために的確な治療が始められるよう最善を尽くしたいと考えています。

周囲への感謝の心を医療に…

清水 一般内科・外科を始め、ご専門の呼吸器内科・外科から健康相談、生活習慣病検診まで様々な科目を標榜しておられますが、我々が高齢社会を元気に生きていくためには何をすることが一番大切だとお考えですか。ドクターの立場でご提案があればぜひ伺いたいと思います。

雨宮 先程からお話している太極拳も効果はありますが、それ以前の習慣として歩くことを生活に取り入れなくては駄目だと考えます。日本人は生活形態から腰の動き方が小さく、股関節だけに頼って歩こうとしがちです。しかしそれが下半身や体幹部の筋力低下を引き起こしていますので、筋肉を鍛えるためには日々積極的に歩く必要があります。そして歩くことが日常的にできるようになれば、次の段階として太極拳を取り入れるのが良いのではないかと。

清水 動きが緩やかな太極拳はお年寄りに無理なくできる運動ですね。院長のお話を伺いながら私も本格的に太極拳を始めようという気持ちになりました。また、私自身これまで数々の医師を演じてきましたが、本当に立派なドクターというのは決して表立って自分の能力を示さないものだということが分かりました。今後の役づくりの参考にさせていただきます。

雨宮 それは恐縮です(笑)。妻が亡くなったことも影響していると思いますが、私は最近ようやく自分の子供を含む周囲の人達に対して素直に「ありがとう」と言えるよう

①INFORMATION



になりました。感謝の気持ちが何より大切なことに六十歳になってようやく気付いた次第です。

清水 そういう気持ちを治療に生かすことができれば、まさに鬼に金棒ですね(笑)。最後に将来への抱負をお聞かせ願えますか。

雨宮 繰り返しになりますが、妻が築いてきた雪谷大塚クリニックのコンセプトを受け継ぎながら、より地域の皆様に喜んで頂ける医療の提供に邁進することが大切だと思っています。その上で私がこれまで培ってきた専門性やネットワークを駆使し、患者さんのために役立つ医療活動を行なってまいりたいですね。とにかく地域の皆様の健康管理のお手伝いをするホームドクターとして、納得してもらえ医療を目指してまいります。そして太極拳や呼吸法教室などにも力を注ぎ、当クリニックが地域の拠点となるようスタッフと一緒に努力を重ねていければ何よりですね。

清水 雨宮院長の医療に対する姿勢を通じて、私も様々なことを学ばせて頂きました。これからも地域のためにご尽力を。